

## 【第10回】東京2025デフリンピックサッカー競技 日本代表キャプテンインタビュー

インタビュー第10回は、東京2025デフリンピックサッカー競技Jヴィレッジ開催を記念し、サッカー競技日本代表両キャプテンに大会への意気込みなどを伺いました。

### 男子日本代表キャプテン 松元 卓巳 選手



松元 卓巳(まつもと たくみ)

【生 年】1989 年 生まれ

【出身/居住地】福岡県出身、福岡県在住

【勤 務 先】あいおいニッセイ同和損害保険株式会社勤務

【所 属】光陽クラブ(福岡県社会人リーグ)、福岡ケルベロス FC(デフ)

【ポジション】GK(ゴールキーパー)

—東京2025デフリンピックサッカー競技日本代表内定、おめでとうございます。大会への意気込みをぜひお聞かせください。

自国開催のデフリンピックを現役として、またキャプテンとして迎えられることを大変光栄に思います。

キャプテンに就任してから常々、「世界一を獲る」と伝えてきました。

昨年、一昨年と実績(※)を積み上げられております。あとは、ホームで日本中の皆さんと世界一を獲るだけです！！

(※) 2023年 第4回ろう者サッカー世界選手権大会 準優勝  
2024年 アジア太平洋ろう者競技大会(デフサッカー男子) 優勝

ーデフサッカーの魅力や見どころについてお聞かせください。また、特に注目してほしいプレーがあれば教えてください。

音のない中で、お互いが信頼して阿吽<sup>あうん</sup>の呼吸で「ゴールを奪い・ゴールを守る」プレー。また、本当にきこえていないのかと思わせるほど強度の高いプレーで試合をしているところに注目してほしいです。

個人的には、きこえる・きこえないに関係なく、魂を込めたコーチングを見てください！

チームとして、組織力を武器に細かいパスワークで身体の高い相手に立ち向かうところにも、ぜひ、ご注目ください。

ーあなたにとって、デフリンピックとはなんですか。

「生きがい」です！この大会に全てを捧げてきました。

デフリンピックで「世界一を獲ること」「認知度をあげること」「環境改善に繋げること」その全てになくしてはならない大会です。

ーサッカー競技が福島県の J ヴィレッジで開催されることを、福島県民として大変嬉しく思っています。復興のシンボルであり、サッカーの聖地でもある J ヴィレッジで大会が行われることについて、どのように感じていますか。また、福島県民へメッセージをお願いします。

サッカーに集中できる素敵な環境を持ち合わせた J ヴィレッジで大会ができること大変嬉しく思います。

東日本大震災ではグラウンドが閉鎖され使用できない期間が長くありました。それを乗り越え、新たな姿で稼働しています。

デフサッカーも苦難の時代、時がありました。J ヴィレッジと共に歩んだ復興した姿、我々が世界一を獲る姿を、日本中の皆様にご覧いただきたいです。

また、様々なイベントを通して、福島県の皆様が応援・盛り上げてくださっていることが伝わります。改めて感謝申し上げます。

引き続き、本大会まで共に様々な形で我々と戦ってくだされば幸いです！

共に世界一を獲りましょう！！

## 女子日本代表キャプテン 伊東 美和 選手



伊東 美和(いとう みわ)

【生 年】 2001 年生まれ

【出身/居住地】 栃木県出身、茨城県在住

【勤 務 先】 関彰商事株式会社勤務

【所 属】 つくば FC レディース

【ポ ジ シ ョ ン】 GK(ゴールキーパー)

ー東京 2025 デフリンピックサッカー競技日本代表内定、おめでとうございます。大会への意気込みをぜひお聞かせください。

優勝し必ず金メダルを取ることです。強豪アメリカから王者の座を奪取します。

ピッチ外でも素晴らしい国だと認められるよう振舞い、名実ともにチャンピオンに相応しいと言われるようにしていきます。

ーデフサッカーの魅力や見どころについてお聞かせください。また、特に注目してほしいプレーがあれば教えてください。

サッカーはコミュニケーションが大切なスポーツなのですが、聴覚に障がいがあると即時のコミュニケーションが難しくなります。

試合を迎えるまでに、私たちは相当な意思疎通と、お互いの考え

の整理をする作業を行い、何度も合宿を行い準備してきました。

選手の細かなポジション修正は、その集大成です。

特にセットプレーは瞬間で得点につながる大切な場面です。得点シーンはもちろん注目ですが、失点を防ぐのも準備を積み重ねています。私はそこに注力しているので、ぜひご注目ください。

ーあなたにとって、デフリンピックとはなんですか。

私はデフリンピック初出場です。どんな大会なのか、どんな雰囲気なのか今からワクワクしています。

日本を代表して、世界と戦える喜びを噛み締めています。

また、以前の大会で出会った海外の選手との再会を含めた国際交流も楽しみにしています。

ーサッカー競技が福島県の J ヴィレッジで開催されることを、福島県民として大変嬉しく思っています。復興のシンボルであり、サッカーの聖地でもある J ヴィレッジで大会が行われることについて、どのように感じていますか。また、福島県民へメッセージをお願いします。

震災前に J ヴィレッジへ行ったことがない私にとって、この地は思い出というよりも未来を作る場所です。この地で暮らす方にとっては復興の象徴となり、復興後しか知らない私たちにとっては未来の象徴となるように願っています。

プレーに集中できる環境、素晴らしい会場を準備してくださる福島県の皆さんに感謝しています。本当にありがとうございます。

応援、よろしくお祈りします！